

「人間の尊厳は皆、平等である」という テーマを掲げたポスターを全病院・施設に掲示します

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



健育会グループが長年培ってきた「人間の尊厳は皆、平等である」というテーマを掲げたポスターを、全病院・施設に掲示します。

健育会グループでは長年にわたり、「人間の尊厳は皆、平等である」という考えのもと、医療・介護に従事してきました。

人間はそれぞれ生まれながらにして独自の個性、感性、能力を持っており、個人としてかけがえのない存在です。

子どもであっても、高齢者であっても、あるいは障がいがあったとしても、誰もが自らの意思を尊重され、その人らしい日々を過ごすことができる。そのような環境を提供することが、私たち医療人の使命です。



社会では「人の命は平等である」と声高に掲げられていますが、実際に医療・介護の現場に立つと、その理想を叶えることがいかに困難であるかを痛感します。

社会的な立場の違いや、搬送先の病院における専門医の不在など、その場のタイミングや状況によって、命を真に平等に扱うことは困難を極めるのが現実です。

一方で、人間の尊厳はいかなる場合においても私達の気持ちで平等にできます。

病気の種類や重症度、年齢や背景、そして社会的な立場の違いによって、その人の尊厳が変わることはありません。

健育会グループでは、患者さんやご利用者の尊厳を守り、その人らしい日々を過ごせるような医療・介護を実践してきました。

長年培われてきた「人間の尊厳は皆、平等である」という意識は、いまや職員一人ひとりの心に深く浸透しています。

そこで、これまで病院や施設内で大切に育んできたこの取り組みを、これからは患者さんやご利用者、ご家族へも広くお伝えしていく方針を固めました。



各病院・施設には「人間の尊厳は皆、平等である」というメッセージを記したポスターを掲出します。このポスターを通じて、健育会グループがこのテーマを大切にしていることを、患者さんやご利用者に広くご理解いただきたいと考えています。

ポスターを各所に掲げることは、職員の皆さんの気持ちをより一層引き締める契機にもなるはずです。

大きくテーマを掲げる中で、患者さんやご利用者から「自分は尊厳を大切にしてもらっていない」とお叱りの言葉をいただくこともあるかもしれません。

そのような場合は、お言葉を真摯に受け止め、至らぬ点を見直して、さらなる成長へとつなげていきます。患者さんやご利用者に、日々の振る舞いを厳しく見ていただくことが、健育会グループのさらなる躍進へと繋がっていきます。



患者さんやご利用者の尊厳を守っている病院や施設は、一目見ただけでその雰囲気の違いが分かります。

相手を敬う職員の姿も、尊厳を尊重されている患者さんの姿も、明るく穏やかです。

尊厳を尊ぶ姿勢は「愛情を持って親身な対応」にも繋がり、患者さんの体内には幸せホルモンが生み出されます。尊厳を尊重する行為は、幸せホルモンが生まれることで身体の回復を促すといった波及効果をもたらしてくれます。

今後はより、患者さんやご利用者の声に真摯に耳を傾け、これまで以上に職員一人ひとりが「人間の尊厳は皆、平等である」という理念を自らのこととして深く考えるよう努めてください。

時には職種を越えて話し合い、「Our Team」で一丸となって取り組むことで、医療・介護の質をさらに高めていって欲しいと思います。

また、患者さんやご利用者が「口から食べる、尿意・便意を自覚する、立位・歩行ができる」といった動作を自立して行うことが困難になったときは、以前の姿を取り戻すためのサポートをひたむきな姿勢で行うよう多職種であらゆる努力をしてください。

すべての職員が医療人としての哲学を持ち、患者さんやご利用者の魂に響くような接遇を日々積み重ねていくことを期待しています。